

まちのわだい



身近なできごとや旬の話題を、企画振興課秘書広報担当（☎56550）までお知らせください。皆さんからの情報をお待ちしています!!

ホンシヤクナゲ群落に、7,173人が訪れました



▲ホンシヤクナゲの桃色が新緑の緑に映えて綺麗でした（4月30日撮影）

毎年4月下旬から5月上旬にかけて、大勢の観光客でにぎわう大字鎌掛のホンシヤクナゲ群落。高山植物である石楠花が、低地に群生していることが大変珍しいことから、昭和6年に国の天然記念物に指定されました。

今年は、残念ながら花が少ない裏年となり、例年より観光客の数も少なめでしたが、5月4日には今年最多の1,341人の方が訪れ、淡い桃色に染まった溪を自分のカメラに収めていました。

今年の花の見ごろは、4月29日から5月2日ごろでした。今年が少なかつた分、来年はきつと、たくさんの花を咲かせてくれることだと期待しています。



▲すだれ、簾と毛せんでしつらえられた棧敷窓から祭を眺める人たち



▲家の中に素敵な工芸品がたくさん展示されていました



▲展示されている日野椀を手にとって…

古い町並みに溶け込むアート

13回目を迎える棧敷窓アート開催

5月2日、3日に開催された棧敷窓アートは、今年で開催13回目。地元工芸作家を中心に日野椀や陶芸、イラストなどの作品が、大字大窪から村井にかけての古い町並みの中にある家々で展示販売されました。

「棧敷窓」とは、祭を座敷の中から見られるように板塀をくり抜いて作られた窓のことで、年に一度、日野祭のときにだけに開けられます。

訪れた人は、通りのあちらこちらにある「棧敷窓アート」の看板を目印に、家の中へ入り、展示されている工芸作品を手にとって眺めたり、工芸作家に質問をしたりして芸術に触れていました。



まちのわだい

800年以上の伝統「日野祭」

絢爛豪華な時代絵巻が繰り広げられました

馬見岡綿向神社の春の例大祭である「日野祭」。5月2日に宵宮、3日に本祭が行われました。「神子」と呼ばれる3人の稚児、「神調社」と呼ばれる袴姿の男性たち、3基の神輿と14基の曳山が神社への大通りを練り歩きました。

宵宮に1,500人、本祭に31,000人が訪れ、神社や大通りはたくさんの人であふれかえりました。

今年は、日野町の姉妹都市であるブラジル・エンブ市からの使節団が来られ、金英町の皆さんと一緒に曳山を引いておられました。

▶ 神社からお旅所（ひばり野）へ向かう「渡御の出発」



▲「ヤレ！ヤレ！ドントヤレ！」威勢のいい掛け声と共に神輿が渡る



▲各曳山からお囃子の澄んだ音色が鳴り響いていました



▶ エンブ使節団の方も金英町の曳山に参加（前から2番目と3番目のハチマキ姿の方）